

2型糖尿病の最近の話題エネルギーのイン・アウトバランスを薬で調整

糖尿病は血糖上昇によりさまざまな合併症を起こし健康寿命が短くなる病気です。血糖上昇はエネルギーのイン（食事摂取量、特に甘いもの）アウト（運動や基礎代謝による消費）そのバランスが崩れ生じる肥満が関与します。イン・アウトバランスの調整には食事運動療法も大切ですが、現在薬でのコントロールが可能です。インを抑える薬は「インクレチン関連薬」です。インクレチンは食後小腸から分泌されるホルモンでさまざまな良い働きがあります。その一つが中枢に働き食欲を抑える。満腹ホルモン作用で最近のインクレチン内服薬、週1回の自己注射薬は満腹ホルモン作用が強く体重が良く減ります。空腹に耐えられず食事療法を断念した方でも試す価値があります。

運動量が少ない方、加齢で基礎

代謝が落ちたりやすくなった方ではアウトを促す「SGLT2阻害薬」が有効です。血糖を腎臓から尿にたくさん出してくれる薬で血糖が下がり体重も減ります。これもさまざまな良い働きを持ち、糖尿病ではない方の心機能や腎機能の保護に使われる場合があります。ただし病状により適応とならないことがあります。主治医への相談が必要です。

かつて2型糖尿病は生活習慣が原因と決めつけられ厳格な生活指導がされ、それができなければ患者さんが悪いととがめられた時代がありました。しかし血糖上昇は体質（遺伝）と環境が主因のため日本糖尿病協会は差別や偏見につながる「生活習慣病」の呼称を使わないよう提言しています。新薬出現で患者さんの負担を減らせる時代が近づいています。



さっぽろ糖尿病・甲状腺クリニック
院長 竹内 淳

■診療科目／糖尿病内科・内分泌内科

診療時間 ●月曜～金曜日/8:00～17:00 ●土曜日/8:00～12:00
(第2・第3土曜日 8:00～17:00) ●休診日/日曜・祝日

札幌駅直結 | 女性の医師・エコー技師常駐

さっぽろ糖尿病・甲状腺クリニック

☎011-707-1024 <http://sdtc.jp>

札幌市北区北7条西2丁目8番地1 札幌北ビル2F(札幌駅北口歩道3番出口から直結)